学びの基盤となる【読書】



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌らしい特色ある学校教育

おっほんシート

札幌市立真駒内公園小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

朝の10分間読書

週に1～3回、朝の会の前の10分間、全校で読書をする取組を続けています。決められた時間静かに読書をすることで心を落ち着けて一日を始められたり、自然とお互いに読んでいる本について情報交換が成されたりするなどのよさがあります。朝に読む本を選ぶために、図書室を利用する児童の姿も多く見られます。

ブックセンター委員会の活動

ブックセンター委員会では、全校児童が快適に図書室を利用できるよう、貸出・返却業務や本の整理を行う他、もっと図書室に親しんでもらえるような企画を考えています。今年度は、委員がクラスごとにおすすめ本を選び、届ける「本の宅急便」や、全校児童に色々な分類番号の本を手に取ってもらうことをねらいとした、「ブッククエストビンゴ」という取組を行いました。



シャッフル読み聞かせ

1年生から特別支援学級までの担任がくじ引きで当たったクラスへ読み聞かせへ行く「シャッフル読み聞かせ」を行いました。「誰が来るのかな」「どんな本を読むのかな」と本を好きな子はもちろん、普段本に触れることが少ない子も取組に興味をもつ姿が見られました。

学習センターとしての機能

○1年生は、図書室の本を活用し、国語ではたらく自動車や、生活で生き物について調べました。

○2年生は、「図書館探検」で図書室の使い方について学んだり、身近なものを使ってつくるおもちゃについて調べたりしました。また、同じ作者の他の作品について触れました。

○3年生は、興味をもった本の情報からクイズを作成したり、1 年生におすすめの本をグループで話し合い、決めたりする活動を行いました。

○5年生は、「作家」に着目して本を借りました。また、読んだ本についてカードを作成し、本の紹介をしました。

○6年生は、これまでに読んだ本の中で印象に残っている本のテーマに着目して、同じテーマで他の本を探しました。

○特別支援学級では、国語や道徳で図書室の本を題材として扱いました。

情報センターとしての機能

○4年生は総合の取組で、郷土史を使い自分たちが住んでいる地域について情報収集を行ったり、今と昔の比較を行ったりしました。

○日頃から図書室の本の分類表を（日本十進分類表）を大きく掲示したり、ブックセンター委員を中心として本の探し方を確認したりすることにより、資料を自分で探す力を付けることを目指しました。